岩手日報
発行所
株式会社岩手日報社
盛岡市内丸3ー7
電話代表(23)4111
振替口座盛岡20番
©岩手日報社1963

十勝沖地震の被害増大

北日本に余震の追い打ち

青森中心に死者38

暗黒―不安な一夜送る

十六日朝北海道、東北地方を中心に北日本を襲った「一九六八年十勝沖地震」による被害は、通信線の回復とともに、さらに大きくなってきた。同日午後十一時現在各道県警調べによると、被害の最も大きい青森県を中心に死者三十八人、行くえ不明九人、負傷者二百二十人、家屋全半壊約九百戸が報告されているが、被害はなお増大するとみられる。特に同夜七時三十九分、同じ十勝沖を震源地とするマグニチュード7・5の強い余震があり、国鉄北海道、東北両支社管内の全列車の運転が停止され、北海道から関東にかけての太平洋沿岸各地に「津波警報」が再び発令されるなど、被災地の人々は不安な一夜を送った。

政府は同日午後総理府に災害対策本部を設置、災害の調査、復旧、被災者救援に乗り出し、被災道県も、関係省庁もそれぞれ災害対策に全力をあげている。

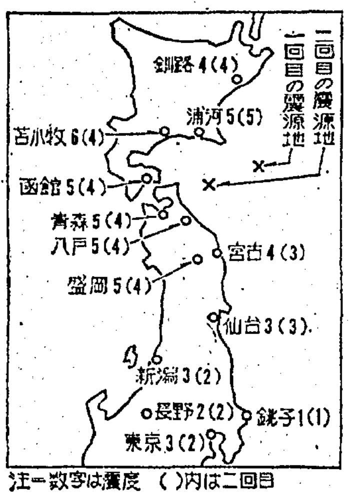
しかし八戸市を中心に家屋の倒壊、火災などで最大の被害を出した青森県が、通信線が復旧する前に強い余震の打撃を受け、いまだに被災状況の全容がつかめないのをはじめ、各地とも報告されていない被害がなおかなりあるものとみられ、通信、交通手段の回復とともに被害の増大が気づかわれている。

青森、岩手両県下では十六日夜、約十万戸が停電、暗黒の被災第一夜となった。

また同夜の地震で青森、函館両市内ではボヤ程度ながら一時火災が発生、大湊線大湊駅では駅舎がつぶれかかって駅員らが避難するなど、余震の追い打ちは被災地の不安を大きくしている。

気象庁によると、十六日午後七時三十九分の〝第二波〟の地震による各地の震度は次の通り。

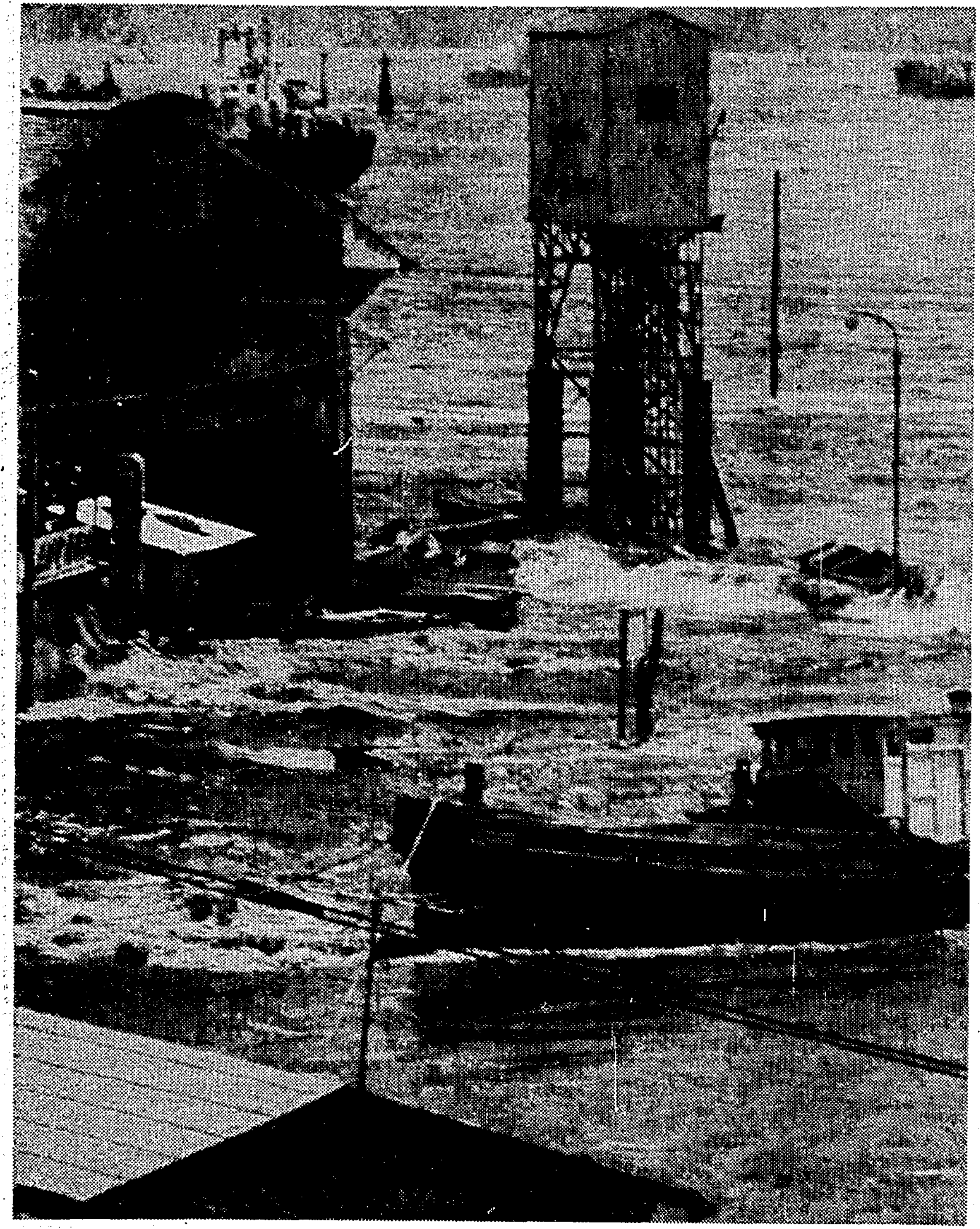
震度5（強震）浦河、広尾（いずれも北海道）▽震度4（中震）秋田、福島、釧路、倶知安、旭川、函館、苫小牧、盛岡、帯広、大船渡、青森、八戸、森▽震度3（弱震）札幌、仙台、根室、江差、岩見沢、室蘭、酒田、宮古、深浦、石巻、白河▽震度2（軽震）東京、宇都宮、水戸、甲府、館山、寿都、長野、大島、新潟、千葉、横浜、秩父▽震度1（微震）銚子、輪島、三島、軽井沢、尾鷲、高田、網代、稚内。



注―数字は震度　(　)内は二回目

全　国　被　害　状　況　（16日23時）

都道府県別		北海道	青森	岩手	宮城	秋田	埼玉	計
死者	人	1	34	2	1			38
負傷者	人	114	101	2	1	2		220
行くえ不明	人		9					9
家屋全壊	戸	8	169	1				178
家屋半壊	戸	16	741	20	11			788
家屋流失	戸							
床上浸水	戸	39	99	109	1			248
床下浸水	戸	19	155	144				
田畑流失埋没	㌶	56	236	1				293
田畑冠水	㌶		104		8			112


押し寄せる津波に孤立した製氷工場　釜石市新浜町

救助法は発動せず

県、被害状況の集計指示

県は十六日午後四時から臨時庁議を開き、十勝沖地震の災害復旧対策について協議したが、被害状況がまだ集計されていないため千田知事は「すみやかに詳細な被害状況をまとめるように」と指示した。県は災害救助法を発動することはないとしている。

千田知事の話　最近にない大きな地震なので県民も恐怖を感じたに違いない。津波の規模も小さく、また関係市町村では早めに避難命令を出したので、沿岸の住民も安全に避難できた。避難命令は十六日午後四時ごろまでにほとんどの市町村で解除されたが、その後の余震を警戒する必要があるので、当分警備体制をゆるめないよう指示している。被害が大きければ別だが、いまのところ災害救助法の発動は考えていない。

本県では死傷者4

再び同じ規模の大揺れ

津波警報

十六日午前の十勝沖地震は本県沿岸部でも死傷者四人のほか家屋損壊、漁船流失など大きな被害を出したが、同日午後七時三十九分ごろ、北海道、東北地方など北日本一帯に二度目の強い地震があった。盛岡、大船渡で震度4（中震）を記録、沿岸各地の住民は再び高台に避難するなど津波の不安におびえ、眠れぬ一夜を過ごした。

県下市町村の被害状況

災害対策本部調べ

県は、十六日午前、十勝沖地震の災害対策本部（本部長　千田知事）を設置したが、同日午後九時現在でまとめた被害状況調べによると、地震による被害は久慈、釜石など三陸沿岸を中心に十七市町村に及んだ。おもな市町村の被害状況次の通り。

【盛岡市】▽死者一▽傷者二▽住家半壊四▽一部破損五十九▽道路損壊九▽堤防決壊二▽山くずれ二▽鉄道被害三

【久慈市】▽死者一▽土砂くずれ市道久慈―中沢間通行止め▽野中橋が八十㍍破損▽漁船流失一、同小破二

【釜石市】▽漁船流失十二、同破損五十四、同沈没一▽住家全壊二、▽同床上浸水七七五、同床下八十一▽水田冠水三十二㌶▽道路決壊一、下水道破損数カ所

【宮古市】▽床上浸水二十一▽作業小屋流失二十六▽田畑冠水三・二㌶

【種市町】▽漁船流失十一、同大破九、同転覆五▽養殖いかだ破損三、流し網破損三

【野田村】▽無動力船の流失五十、動力船流失十八▽作業小屋破損十五

【田老町】▽漁船流失十七（被害百六十八万円）▽ワカメいかだ流失百七十四台（同百二千二万円）

【田野畑村】▽漁船の沈没三、同大破（五百万円）▽コンブ養殖施設十六（百十二万円）ワカメ養殖施設二百五十八（千八十万円）コンブ（二百四十万円）

【大槌町】▽護岸流失三十㍍▽造船所破損一▽サッパ船流失二十▽漁船流失四十

【山田町】▽養殖施設（七千―八千万円）▽住宅床上浸水五

【岩泉町】▽小本橋にキ裂、通行止め

【浄法寺町】▽小学校校舎屋根破損一

【三陸町】▽漁船破損一▽水産加工場作業場倒壊一

【西根町】▽住宅全壊二（百万円）同半壊七（三百五十万円）、非住家七（百四十万円）▽道路決壊一。

【松尾村】▽住家半壊一〇

本　県　関　係　の　被　害　（午後9時現在県警本部調べ）

（警察署別）		盛岡	二戸	宮古	釜石	久慈	水沢	花巻	岩手	岩泉	大船渡	計
人的	死者	1				1						2
	傷者	2										2
建て物	全壊											
	半壊	4	1	2					13			20
	床上浸水			20	775	5						800
	床下〃			21	10						4	35
	一部破損	59		2	1	3		6	13			84
	非住家被害	2		19	98	28			2		3	152
道路損壊		9	2		3			1				15
堤防決壊		2			1							3
山くずれ		2		4		1					2	9
鉄軌道被害		3	1	3		1	1		2			11
通信施設被害			1	1	36		2	1				41
船舶	沈没			1	5	5				4	1	16
	流失			35	3	39						77
	破損			5	50	11						66
	ろかい舟等			10	57	17					12	96
被災世帯数		3	1	8	799	5						816
被災者概数		19	7	33	3164	25						3248

水産関係の被害四億

十六日県沿岸部を襲った津波で、漁船、養殖施設など水産関係にかなり大きな被害を出した。県漁政課が、同日午後八時現在で集計したところによると、被害総額は三億九千九百万円に達したが、各沿岸部は津波警報が発令されたまま調査も出来ず今後さらにふえるものと見られる。

被害は、釜石市、岩泉町、山田町の三市町で、最も大きいのは山田町で動力、無動船合わせて百五十二隻が流失、大破し一千六百二十万円。漁具流失七十八件、九千七百七十万円、ノリ・カキ養殖施設流失九千五百三十万円、水産物流失一億三千九百四十万円など。

また釜石市は、漁具流失二件、四百三十万円、養殖施設流失二千二百十万円など合計三千八十万円、岩泉町は、養殖施設流失で一千百九十万円など一千二百六十万円の被害額となっている。

このほか久慈市を中心に県北沿岸部で魚市が全壊したり動力船流失など被害が出ている。また宮古市津軽石では稚苗施設倒壊、大船渡市ではワカメ養殖施設約四百台が全滅した。

社党、三沢に調査団

【東京支社発】社会党は、十六日発生した十勝沖地震現地見舞いの調査団を同日夕方、自衛隊機で青森県三沢市に派遣した。

一行は団長淡谷悠蔵、団員米山義一郎、鈴木寿の三国会議員で、現地で地元社会党国会議員と合流し岩手、青森両県の被害状況を視察する。

選挙速報車

自民党江刺支部に選対本部

自民党江刺支部（支部長佐藤徳蔵氏）は、江刺市六日町五ノ二の同支部事務所内に参院選対策本部を設置した。電話江刺局二九三四。また社会党江刺総支部（支部長菊地登久男氏）も、江刺市南町四ノ八、江刺教育会館にあった党事務所を同市大通り一ノ二三、斉藤方（電話江刺局二六四七）に移転した。

岩間参院議員が来盛

共産党の岩間正男参院議員は、十八日午後一時十八分盛岡駅着の下り急行「むつ」で来県する。同氏は新選の宮脇候補とともに盛岡市内を遊説、午後六時から県公会堂で開かれる個人演説会に出席する。同氏は十九日朝青森に向かう予定。

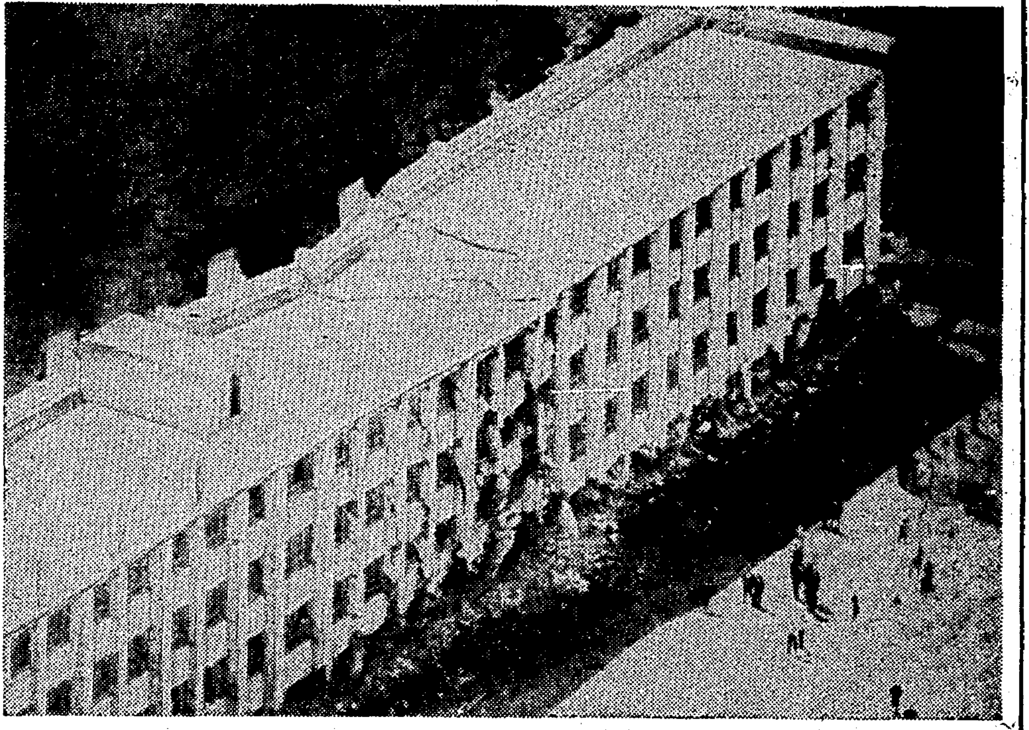
きょうの日程

▽**岩動道行候補**　午前八時盛岡市を出発、午前は都南村矢巾町、紫波町、北上市を遊説する。午後は金ケ崎町をまわり午後一時半から同四時まで水沢市民体育文化会館で行なわれる故小沢佐重喜衆院議員の自民党県連葬に参列。このあと江刺市岩谷堂を回り、盛岡に帰る。個人演説会なし。

▽**民眞候補**　盛岡市内を遊説する。午前七時同市中ノ橋通の選挙事務所を出発、加賀野、水道橋を経由して山岸、下小路を回り上田、黒石野団地などで街頭演説。午後青山町、土淵、前潟を回り新田町に出て盛岡駅前などで街頭演説。盛岡泊まり。個人演説会なし。

▽**千葉七郎候補**　午前九時半千厩町を出発、室根村から陸前高田市、大船渡市、三陸村、遠野市を経て午後二時半釜石市入り。午後九時まで釜石市内の各地で街頭演説。釜石泊まり。個人演説会なし。

▽**宮脇嘉一候補**　地震のため日程の一部を変更、午前七時一関市を出発、同市内を遊説したあと川崎村、千厩町、大東町摺沢、大原と東磐井郡下を回り、正午すぎ陸前高田市入り。午後は住田町、大船渡市、三陸町を回り釜石市内でも街頭演説。釜石泊まり。個人演説会なし。


鉄筋校舎もくずれる　崩落した函館大の新築校舎（陸上自衛隊北部方面総監部連絡機から）＝札幌

時事川柳

政規法骨抜き肉そぎ皮残し　釜石市　不野雀手
愛きょうの不足を自バラキャンペーン　盛岡市　吉田サツオ
縁組みが広域都市化でささやかれ　住田町　菅原修
田を植えに実家へ急ぐハイヒール　福岡町　古館馬仙
田の畔で声援されてる花光　胆沢町　小原四四三

本社来訪　16日

金田一光氏（秋田・北光電球取締役）叙勲あいさつ。岩脇邦雄氏（トヨタ車体常務取締役）。

お知らせ

岩手日報社は十六日の十勝沖地震の被害状況報道のため同日午後号外を発行しました。

きょう12ページ

風土計

せっかく運転免許証を持っていながら、こんど胆沢町若柳中学校の九人の先生が、免許証を一括して校長先生のもとに預けた。言ってみれば免許証の返上であり、運転の腕前があれど運転しないということである。若柳中学校の教職員は二十人だが、マイ・カー族は二人に一人の割り合いであった。普及率からいえば非常に高率であろう▼車はたしかに便利である。やがて、各家庭に普及する時期がくるかもしれない。が、便利なはずの車も時と場合によっては凶器と化す。さる十五日には山梨県で修学旅行の中学生を乗せたバスと大型トラックとが衝突、中学生三人、引率の教師二人、それに交代運転手の六人が死亡する事故が起きた。相手のトラックの運転手は長距離運行に疲れ果てた無免許の少年だった▼修学旅行シーズンにはいったばかりでもあり、父兄に与えたショックは大きかったに違いあるまい。この無免許運転と、酔っぱらい運転、スピード違反は〝交通三悪〟である。激化する交通戦争は三悪を追放することによって終結する公算大なりと言われながら、いっこうに徹底しない。若柳中学校の先生らが免許証返上を思い立った裏には無念の事故がある▼同僚の教師二人が相次いで酔っぱらい運転による事故を起こしたことだ。事故直後から交通安全月間が始まったとあって、このさい、同僚の事故をともどもに反省、当分運転しないことを申し合わせたのだという。もっとも、初めは所轄警察署の熊谷水沢署長に一括寄託を申し入れたものだが、校長と署長が協議した結果校長預かりの処置をとったものだ▼交通事故絶滅が叫ばれながら、学校の先生が酔っぱらい運転などの事故をしでかすようでは生徒に対しても示しがつかぬというものである。何も交通事故を起こす先生は若柳中学校にかぎったことでない。ほかに例もある。が、先生が先に立って事故を起こすようでは交通安全運動の実などあがろうはずがあるまい▼同僚の先生たちが、よりより協議して免許証の返上という態度に出たのは、そのへんのところを猛省してのことであろうと思う。子を持つ親なら預けた子供は無事でありたいと願わぬものはない。この親の心情にかなうためにはまずもって先生方に身を正してもらわねばならぬ。同僚の事故に責任を感じた先生たちの行動がやがて、事故絶滅となって開花することを期待したい。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。